

平成20年8月29日

担当課	高校教育課
内線電話	3389
直通電話	894 - 3389
担当者	小川、梶山

「平成20年度全国学力・学習状況調査」の結果について

本年4月22日に実施された「平成20年度全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本県の状況と今後の取組については、別添のとおりです。

1 「平成20年度全国学力・学習状況調査」の概要（資料1）

2 「速報版」（資料2）

全国学力・学習状況調査について

1 調査の概要

(1) 目的

国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査日時

平成20年4月22日(火)

(5) 本県の参加状況

参加校数 603校(100%)

<内訳>参加学校数

小学校	学校数
市町立小学校	378校
特別支援学校	5校
公立小計	383校
私立小学校	5校
国立小学校	1校
合計	389校

中学校	学校数
市町立中学校	192校
県立中学校	2校
特別支援学校	7校
公立小計	201校
私立中学校	12校
国立中学校	1校
合計	214校

2 調査結果の概要

(1) 本県の結果の状況 (公立小中学校、県立中・特別支援学校を含む)

校種	教科	A 問題 (知識)		差	B 問題 (活用)		差
		全国	本県		全国	本県	
小学校	国語	全国	65.4	-2.8	全国	50.5	-3.0
		本県	62.6		本県	47.5	
	算数	全国	72.2	-1.2	全国	51.6	-2.2
		本県	71.0		本県	49.4	
中学校	国語	全国	73.6	0	全国	60.8	-0.2
		本県	73.6		本県	60.6	
	数学	全国	63.1	-0.5	全国	49.2	+0.7
		本県	62.6		本県	49.9	

(2) 課題等

【小学校】

< 国 語 >

文の構成や表現の効果を考えて書いたり、推敲したりすることに課題がある。

字数や構文などの条件に即して書くなど、目的や条件に応じて書くことに課題がある。

資料から読み取ったことを整理したり、分かったことや自分の考えを明確にして書くことに課題がある。

目的や意図に応じて、段落の内容をとらえることに課題がある。

登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読むことに課題がある。

一定時間内にまとまりのある文章を読むことに課題がある。

< 算 数 >

整数 + 小数の計算や小数と整数の関係を理解し、その四則計算の答えを推察することに課題がある。

ひし形や二等辺三角形、直角三角形の性質を理解し、それらの形を見て、名称を答えることに課題がある。

数値で表した面積とほぼ同じ実際の具体物を答えることに課題がある。

百分率の意味を理解し、基準量と百分率を用いて処理することに課題がある。

式やことばで理由や説明など記述することに課題がある。

円の面積と円周の公式の違いを理解し、円の面積から半円を求めることに課題がある。

グラフが表している内容を読み取ることに課題がある。

算数に対する意識は、全国平均を上回っているが教科の正答率は下回っており、意識と教科の力にずれがあることに課題がある。

【中学校】

<国 語>

漢字の書き取りや慣用表現を含めて生活と密着した言葉を使う機会が少ないことに課題がある。

まとまった文章の内容を読み取り、自分の考えをまとめて明確に伝えるように書くことに課題がある。

一定時間内に文章全体から必要な情報及び内容を選び出すことに課題がある。

<数 学>

具体的な事象を文字式に表したり、文字式の意味を読み取ることに課題がある。

数量や図形の性質を根拠に基づいて説明したり、それを書いたりすることに課題がある。

与えられた情報を分類整理して処理することに課題がある。

3 指導改善のポイント

【小学校】

<国 語>

文中の語句や、語句相互の關係に気を付けさせながら、文の構成が正しく理解できるための指導、また、読み手を引きつける書き出しや結びの表現など、構成を工夫して書く指導の充実

相手や目的に応じて短い言葉で簡潔に表現するための指導や、字数や構文などの条件に即して書く学習活動の設定と指導の充実

様々な文章と図表やグラフを關係付けて読み、得られた情報を基に自分の考えを書く指導の充実

事実と感想、意見などの關係を押さえさせた上で段落の内容をとらえさせていく指導や、はじめ、なか、終わりといった展開、順序に沿った述べ方など、論の進め方を理解するための指導の充実

登場人物の特徴や人物相互の關係などをとらえ、場面の展開に沿った言動等を押さえながら、物語全体を把握するための指導の充実

まとまりのある文章を読む機会を増やし、一定時間内に、より多くの文章量を読む指導の充実

<算 数>

小数と整数の計算において、位をそろえて計算することを確実にするための指導の充実

例えば、ひし形をかいて切り抜き、折り重ねるなど、その性質を実感させる操作活動を取り入れ、ひし形は4辺の長さが等しく、対角線が直交するという図形の性質と「ひし形」という名称についての指導の充実（二等辺三角形、直角三角形も同様）

面積の学習において、様々な具体物の大きさを調べる活動や、面積の数値が分かっている場合は分かりやすい図形に置き換えてみる活動を取り入れるなど、面積の感覚を豊かにすることについての指導の充実
百分率で示された割合を小数に直すことについての指導とともに、日常生活の中で百分率が用いられている場面を探すなどの活動を取り入れ、基準量を基にした処理の仕方についての指導の充実

理由や説明の前提となる、情報の選択、条件の数などを明らかにする指導とともに、口頭での発表に加えて、ノートに記述する活動を取り入れ、その記述の仕方についての指導の充実

同じ大きさの円の面積と円周を求め、その違いを確認する活動等を取り入れ、公式の意味理解を深める指導の充実

折れ線グラフと棒グラフといった複数のグラフを提示し、それぞれのグラフの内容を読み取るだけでなく、2つのグラフから分かることを読み取る活動を通して、グラフの表現内容を読み取ることについての指導の充実

一つの問題をじっくり考えさせるだけでなく、そこで学んだことが他の問題でできるかを確かめる活動を取り入れ、「わかって、できる」という成就感を味わわせる指導の充実

【中学校】

<国 語>

単なる漢字の書き取りだけでなく、文脈に即した漢字の読み書きについての指導の充実

相手に自分の考えを伝えるために基本的な文章の内容の読み取りや集めた複数の資料を比較し、それらを活用して自分の考えをまとめる指導の充実

論理の展開の仕方に即して、内容を読み取るための指導の充実

一定時間内に長文を読み、文章から得られる多くの情報を適切に処理することができる力を身に付けさせるための指導の充実

<数 学>

具体的な事象を文字式で表したり、与えられた文字式の意味を文字式のきまりに基づいて理解したりすることについての指導の充実
 問題の結果だけでなく、そうなることの原因を分かりやすく説明したり、書いたりすることについての指導の充実
 与えられた条件の組み合わせを考えたりするなど、課題を解決するのに必要な情報を読み取ったり、分類整理したりして処理することについての指導の充実

4 今後の取組

(1) 「教えて考えさせる」授業への転換

教材事例の提供

知識や技能の繰り返し学習の強化

知識や技能を活用する力の育成

全教科における読解力の育成

(2) 管理職を中心にした各学校の組織的な学力向上の取組

改善プランの作成と実践

(3) 新学習指導要領への早期対応

(4) 課題のある学校への支援

学校訪問による直接支援（市町教育委員会とともに）

5 県立中学校の結果等

校種	教科	A 問題（知識）		差	B 問題（活用）		差
		全国	県中		全国	県中	
中学校	国語	全国	73.6	+17.9	全国	60.8	+27.1
		県中	91.5		県中	87.9	
	数学	全国	63.1	+32.0	全国	49.2	+35.9
		県中	95.1		県中	85.1	

小学6年生・中学3年生の生活習慣等の調査結果
 (全国学力・学習状況調査 質問紙調査からの抜粋)

	調査項目	平成19年度			平成20年度			平成19年度		平成20年度		昨年度・全国との比較	
		小学校6年生	差		小学校6年生	差		中学校3年生	差	中学校3年生	差		
1	毎日朝食を摂取	全国	86.3		全国	95.4		全国	80.5		全国	91.9	小中とも9%程度増加し、全国より高い率を継続
		本県	88.0	+1.7	本県	96.8	+1.4	本県	85.5	+5.0	本県	94.7	
2	10時までに就寝(小学校)	全国	42.1		全国	41.4		全国	69.8		全国	69.5	小中ともやや減少したが、全国より高い率を継続
	12時までに就寝(中学校)	本県	43.1	+1.0	本県	42.3	+0.9	本県	76.3	+6.5	本県	75.2	
3	朝7時前に起床	全国	74.5		全国	75.0		全国	63.9		全国	65.1	小中ともやや増加し、全国より、小学校で10%程度、中学校で6%程度の高い率を継続
		本県	84.9	+10.4	本県	86.1	+11.1	本県	70.6	+6.7	本県	71.4	
4	授業以外に1時間以上の学習をしている(月～金)	全国	57.9		全国	56.1		全国	65.0		全国	65.4	小学校でやや減少、小中とも全国との差はほとんどなし
		本県	57.8	-0.1	本県	56.9	+0.8	本県	65.1	+0.1	本県	65.3	
5	学校以外での30分以上の読書時間(月～金)	全国	39.2		全国	36.8		全国	29.7		全国	27.9	小中とも減少、全国との差はほとんどなし
		本県	38.6	-0.6	本県	36.9	+0.1	本県	32.7	+3.0	本県	28.6	
6	学習塾(家庭教師を含む)で勉強している	全国	44.9		全国	48.5		全国	59.8		全国	64.2	小中とも増加したが、全国より10%程度低い率で継続
		本県	33.9	-11.0	本県	37.6	-10.9	本県	51.8	-8.0	本県	55.2	
7	テレビやビデオ、DVDを2時間以上見ている	全国	60.0		全国	69.8		全国	60.8		全国	66.8	小中とも大きく増加し、全国より高い率を継続
		本県	63.7	+3.7	本県	73.5	+3.7	本県	61.4	+0.6	本県	69.1	
8	テレビゲームやインターネットを2時間以上使用する	全国	20.0		全国			全国	23.1		全国		昨年度と今年度との質問内容が変わり、昨年との比較ができないが、全国と比較すると、テレビゲームやインターネットを2時間以上する割合は少ない。
		本県	17.2	-2.8	本県			本県	17.4	-5.7	本県		
9	テレビゲーム(コンピュータゲーム)を2時間以上使用する	全国			全国	23.9		全国			全国	21.3	
		本県			本県	20.7	-3.2	本県			本県	16.3	
10	インターネットを2時間以上使用する	全国			全国	7.1		全国			全国	15.9	
		本県			本県	4.5	-2.6	本県			本県	10.9	

平成20年度全国学力・学習状況調査の結果

< 資料 2 >

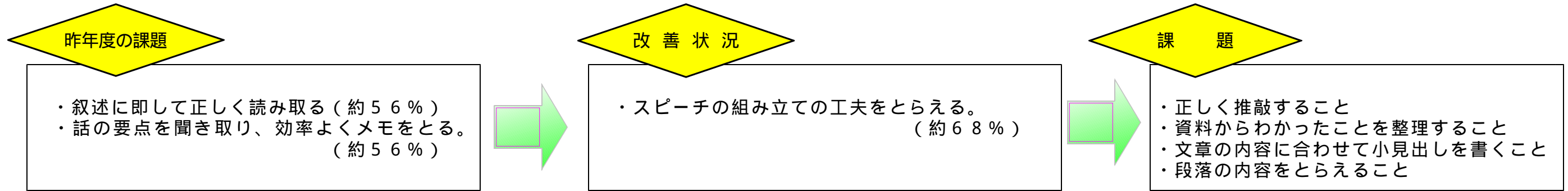
「速報版」

長崎県教育庁
高校教育課

平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：小学校 国語科

長崎県教育委員会

小学校 国語（主として「知識」に関する調査から）



【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査

全国正答率	65.4%
県正答率	62.6%

課題

「知識」に関する観点

ア 文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲すること。

イ 目的や課題に即して、資料から分かったことを整理してメモに取ること。

ウ 文章の内容に合わせて、簡潔に小見出しを書くこと。

エ 目的や意図に応じて、段落の内容をとらえること。

課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 1 文と文との意味のつながりを考えながら、不適切な部分とその理由、改善の方法などを指摘するなど、正しく推敲することができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

ア 文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲できること。

指導の工夫

ア 文中の語句や、語句相互の関係に気を付けさせながら、文の構成が正しく理解できるよう指導する。

ア 句読点、段落の始めや会話部分の改行、修飾や被修飾との関係、文と文のつながり、取り上げた内容の妥当性、冒頭と結びの一貫性など、推敲の観点について理解できるような学習の場を設定する。

- 2 目的や課題に即して、グラフ等の資料からわかったことを整理し、構文に合わせて書くことができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

イ 目的や課題に即して、グラフ等の資料を読み取ることができること。

イ 資料からわかったことを構文に合わせて書くことができること。

指導の工夫

イ 図表やグラフなどの非連続的型テキストを的確に読む学習や、目的や課題に応じて資料を自主的に選択し、活用する場を設定する。

イ 記録文や報告文などの様式や書式を踏まえ、自分が調べた事実に基づいて表現する場を設定する。

- 3 文章の内容をとらえた上で、内容を要約して短い言葉で表現することができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

ウ 書かれている内容を要約して、短い言葉で表現することができること。

指導の工夫

ウ 伝える相手を意識して小見出しをつけるなど、内容を要約し、相手や目的に応じて短い言葉で表現する学習を中学年より徹底して行わせること。

ウ 記録、礼状や依頼状など様々な表現様式や書式について学び、目的や課題に応じて工夫しながら書く場を設定すること。

- 4 目的や意図に応じて、段落の内容をとらえることができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

エ 文脈に即して内容を読み、段落の内容を正しく読むことができること。

指導の工夫

エ 中心となる語句が文脈の中でどのように表現を変えているかをとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえるために接続語や文末表現などに着目したりして、段落の内容をとらえていく学習の場を設定する。

エ はじめ、中、終わりといった展開の仕方、考えの中心となる文の置き方、順序に沿った述べ方など、論の進め方を理解しながら読む学習の場を設定する。

平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：小学校 国語科

長崎県教育委員会

小学校 国語（主として「活用」に関する調査及び教科の意識調査から）

昨年度の課題

- ・筆者の主張の根拠を読み取る。（約42％）
- ・情報を取り出し表現様式に即してまとめる。（約46％）

改善状況

- ・必要な情報を取り出し整理する。（約35％）
- ・情報を読み取り、分かったことや自分の考えを書く。（約28％～約38％）

課題

- ・叙述と関係付けて読むこと
- ・必要な情報を取り出し整理すること
- ・様々な表現様式に即して書くこと
- ・文章全体の組み立てをとらえること
- ・一定時間内にまとまりのある文章を読むこと

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「活用」に関する調査

全国正答率 50.5%

県正答率 47.5%

「質問紙調査」の主な回答
県全体（国全体）

・国語の勉強が好き	52.2%	(56.1%)
・国語の授業はよく分かる	74.9%	(78.0%)
・自分の考えの理由がわかるように気を付けて書く	64.9%	(67.1%)

課題

「活用」に関する観点

- ア 登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読むこと。
 - イ 目的に応じて必要な情報を取り出したり、情報からわかったことを基に自分の考えを明確にして書いたりすること。
 - ウ 文章全体の組み立てをとらえること。
 - エ 一定時間内にまとまりのある文章を読むこと。
- 質問紙調査から
- オ 成就感を与える授業づくりをすること。
 - カ 根拠を明らかにして、自分の考えを述べる学習活動を設定すること。

課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 1 複数の物語文を読み比べ、それぞれに登場する人物の心情と場面についての描写を、叙述と関係付けて読むことができる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
ア 登場人物の心情と場面についての描写を、叙述と関係付けて読むことができること。
指導の工夫
ア 物語文の冒頭部分における登場人物の特徴や人物相互の関係などをとらえさせ、場面の展開に沿った言動等を押さえながら、物語全体を把握させるための指導を徹底する。
ア 同一テーマの複数の作品や、同じ作者が書いた作品を読み比べ、場面の描き方の特徴などをとらえる学習を取り入れる。
- 2 目的に応じて必要な情報を取り出して整理したり、分かったことや自分の考えを集めた情報を根拠にして書いたりすることができる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
イ 目的に応じて必要な情報を取り出すことができること。
イ 目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確にして書くことができること。
指導の工夫
イ 目的や課題に基づき、様々な種類の資料の中から、必要な情報を探し、取捨選択しながら情報を活用する学習を取り入れる。
イ 様々な文章と図表やグラフなどを関係付けて読み、得られた情報を基に自分の考えを書く学習を取り入れる。
イ 必要な情報を取り出して、多様な様式に合わせてまとめたり、情報を書き換えたり、字数や構文などの条件に応じて書く活動を取り入れる。
- 3 複数の文章を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえることができる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
ウ 自分の考えを明確にするため、文章全体の組み立ての効果を考えて書くことができること。
エ まとまりのある文章を読む機会を増やし、一定時間内に、より多くの文章量を読むことができること。
指導の工夫
ウ 文章全体の組み立てが異なるいくつかの文章を読み比べ、その効果について児童自らが発見していけるような学習を取り入れる。
ウ 自分が考えたことを客観的な事象を基に裏付け、読み手を引きつける書き出しや結びの表現など、構成を工夫して意見文を書く学習の場を設定する。
エ 長文を読む際に、時間に制限を設けて読む活動や、活動に合わせた教材や資料を学習に取り入れる。
オ 児童の実態を的確にとらえ、目標を絞り、学ぶことを明確にして達成感・成就感を味わわせる授業を実施する。
オ 「何がわかったり、できるようになればよいのか」を児童に自覚させ、目標達成に向けた主体的な学習が展開される授業を実施する。
カ 児童の実態を的確にとらえた上で、単元を構想し、目標達成のための有効な学習活動を取り入れる。

平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：小学校 算数科

長崎県教育委員会

小学校 算数（主として「知識」に関する調査から）

昨年度の課題

- ・小数、分数の関係を理解している。（50％）
- ・百分率の意味理解と処理すること。（30％）

改善状況

- ・小数、分数の関係を理解している。（約80％）
- ・百分率の意味理解と処理すること（約60％）

課題

- ・小数と整数の関係を理解し処理すること
- ・百分率の意味を理解し処理すること
- ・図形の名称、性質の理解すること
- ・面積の感覚を豊かにすること

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査

全国正答率 72.2%

県正答率 71.0%

課題

「知識」に関する観点

- ア 整数＋小数の計算を習得すること。
- イ 小数の乗法、除法の式で計算の答えが被乗数、被除数より大きくなるのはどんな場合かを理解すること。
- ウ ひし形、二等辺三角形、直角三角形の形を理解し、その形を見て、名称を答えられること。
- エ 面積についての感覚を身に付けること。
- オ 基準量×割合の意味理解と処理を習得すること。

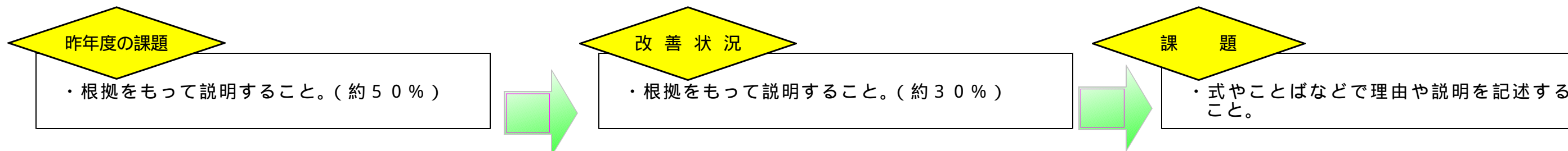
課題に対応した改善する指導内容及び方法

- － 1, 2 小数と整数の四則計算において、形式的な計算技能だけでなく、その意味を理解し答えの大小等を推察することができる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
ア 整数と小数の加減の計算ができること。（簡単なものは暗算で）
イ 小数と整数の関係を理解し、小数と整数の四則計算の答えの大小を推察できるようにすること。
指導の工夫
ア 整数と小数の関係を数直線を使って理解を深め、位をそろえて計算することを繰り返し行う。
イ 数直線や図を用いたり、具体的な場面に当てはめたりして乗数や除数が1より小さくなるときの乗数と積の大きさの関係や除数と商の大きさの関係について調べる活動を取り入れる。
イ 問題解決の一つの方法として、簡単な数をあてはめて調べるという活動を取り入れる。
- － 3 基本的な図形の定義や性質について理解し、図形を見て、その図形の名称を答えることができる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
ウ ひし形は4つの辺の長さが等しいことや二本の対角線が直交することが理解できること。
指導の工夫
ウ ひし形をかいて切り抜き、折り重ねるなど、その性質を実感させる操作活動を取り入れる。
ウ 図形の定義を明確にし、既習事項を基に学習場面に説明する活動を取り入れる。
- － 4 面積など、量の大きさについての豊かな感覚の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
エ 数値で表された面積と実際の広さがかけ離れない感覚を持つこと。
指導の工夫
エ 面積の学習において、様々な具体物の大きさを調べたり、確かめたりする活動を積極的に取り入れたたり、数値が分かっているときは、分かりやすい図形の大きさに置き換えてみる活動を取り入れたたりすることにより、面積の感覚を豊かにする。
- － 5 百分率の意味を理解し、処理することができる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
オ 基準量×割合の意味を理解し、処理することができること。
指導の工夫
オ 40%と表された割合と0.4と小数で表された割合が同じ割合であることなど、百分率と小数の割合の関係の理解を確実にする。
オ 日常生活の中で百分率が用いられている場面を探す等の活動を取り入れ、それらは何が基準量となっているかを考えさせることを繰り返し行う。（例：出席率90%という場合の基準量は1クラス全体の人数である）

平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：小学校 算数科

小学校 算数（主として「活用」に関する調査及び教科の意識調査から）

長崎県教育委員会



【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「活用」に関する調査
 全国正答率 $\frac{51.6}{\%}$
 県正答率 $\frac{49.4}{\%}$

質問紙調査で良好な回答をした児童（国）

	県全体	国全体
・算数が好き	65.5%	(65.4)
・算数の勉強が大切	92.9%	(91.7)

 意識面は全て全国平均を上回っている。

課題

「活用」に関する観点
 ア 次の4つの視点で、式やことばで理由や説明が記述できること。
 ・与えられた情報を整理、選択して
 ・複数の判断基準の必要性を認識して
 ・三角形や四角形の内角の和を基に
 ・グラフを読み取って
 イ 円の面積と円周の公式のちがいを理解し、求めること。半円の面積を求めることができるようにすること。
 ウ グラフが表している内容を読み取ることができること。

質問紙調査から
 エ 意識の高さと教科の調査結果の整合性をとること

課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 1 式やことばなどで理由や説明を記述することができる力の向上を図る。
 6年生につけたい具体的な力
 ア 与えられた情報を整理し、選択できること。
 ア 問題解決のためには、1つの判断基準ばかりでなく、複数の判断基準があり、複数の判断基準を基にして考えることができること。
 ア 図形の性質を基に面積の関係をとらえ、判断することができること。
 ア 折れ線グラフ、棒グラフのそれぞれの特徴及び2つのグラフの関係を読み取ることができること。
 指導の工夫
 ア 説明にあたっては、何を示せば十分かを明らかにした上で必要な情報を整理・選択する活動を取り入れたり、提示された説明について、なぜその説明の内容で十分なのかを考えたりする活動を取り入れたりする。
 ア 基準量が異なる二つの場面を示して、割合が同じであっても、実際に比較量が異なることを確認する活動を取り入れ、問題解決の際に複数の視点で判断しなければならない学習経験を積極的に行う。
 ア 複数の領域を個々に学習させるだけでなく、関連させて学習する機会を多く取り入れ、そのような算数的活動を仕組む。
 ア 複数のグラフを提示し、それぞれのグラフの数量を読み取るだけでなく、それぞれのグラフの特徴を基に、グラフの形状から読み取れることを発表し合ったり、その理由を説明したりする活動を取り入れる。
- 2 図形の性質と面積を関連付けて判断の理由を数学的に表現する力の向上を図る。
 6年生につけたい具体的な力
 イ 三角形から四角形に図形を変えて考える発展的な場面で、内角の和のちがいなど、図形の性質とその面積の関係をとらえて、問題を解決し、その理由を記述することができること。
 指導の工夫
 イ 三角形、四角形、円といったように複数の図形を関連付けた学習を数多く仕組む。
 イ 問題を解いた後に、その問題の条件を変えて新しい問題をつくったり、その問題を他の児童と解き合ったりするような算数的活動を仕組む。
- 3 グラフの表現内容を読み取る力の向上を図る。
 6年生につけたい具体的な力
 ウ 折れ線グラフの変化と合致する棒グラフを適切に選択することができる。
 指導の工夫
 ウ 複数のグラフを提示し、それぞれのグラフから分かることを読み取るだけでなく、2つのグラフからわかることを読み取る活動を取り入れる。
 「わかったつもりの子ども」を「できる子ども」にするために指導方法の工夫と繰り返し学習の強化を図る。
 エ 1単位時間で1問をじっくり考えさせる授業だけでなく、そのことが、理解でき使えるようになっているかを確認する問題を出題する。
 エ 表現処理の技能は、繰り返し学習等により徹底を図り、「わかって、できた」という成就感を味わわせる。

平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：中学校 国語科

長崎県教育委員会

中学校 国語

昨年度の課題

- ・漢字を正しく読み、書くこと。
- ・同音異義語や慣用句など日ごろあまり使用されない漢字の読み書きに課題がみられる。
- ・文脈上の意味を読み取ること

改善状況

- ・漢字の読み書きについては全体として向上している。（84.0％）
- ・自分の考えをまとめて書くことに対する無答率が減少している。

課題

- ・言語事項における慣用句や同訓異字や漢字など日頃あまり使用されない漢字や語句を書くこと
- ・一定時間内に文章全体から必要な情報及び内容を選び出し、自分の考えが明確に伝わるように書くこと

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査
 全国正答率 73.6％
 県正答率 73.6％

主として「活用」に関する調査
 全国正答率 60.8％
 県正答率 60.6％

質問紙調査で良好な回答をした生徒（国）

	県全体	（国全体）
・国語が好き	54.8％	（55.2）
・国語の勉強が大切	88.9％	（87.3）
・授業がよく分かる	64.9％	（66.8）
・漢字を生活の中で使っている	58.5％	（58.1）
・授業でよく意見交換をする	43.7％	（43.1）
・読書は好きだ	75.0％	（69.0）

重点課題

- 「知識」に関する観点
 ア 漢字を正しく読み書くこと
 イ 学校で学習した様々な語句を生活の中に生かすこと
 ウ 文脈上の意味を読み取ること
- 「活用」に関する観点
 エ 一定時間内に文章や資料に書かれている中から必要な情報を読み取り、条件に即して自分の考えを書くこと

質問紙調査から

- オ 成就感を与える授業づくりをすること
- カ 学んだことを生かす場を設定すること

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

言語や言語文化に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いる力の向上を図る。
 3年生につけたい具体的な力

- ア 文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすることができる。
- イ 慣用句や同音（同訓）異字など生活に密着した言葉の広がりを実感できる。
- ウ 語句の文脈上の意味を読み取ることができる。

指導の工夫

- ア 漢字を一字一字正確に読み書きするだけでなく、文脈に即して正しく用いる学習活動を取り入れる。
- ア 読んだり書いたりする機会を増やすとともに、国語辞典や漢和辞典を積極的に利用して学習する場を設定する。
- イ 言語事項についての取り立て授業を含めて日常の中でより多くの言葉と出会う機会を設定し、書くことを中心とした学習活動の中で授業で学習した語句や漢字を積極的に使う場面を設定する。
- ウ 文章中のことばについては辞書的な意味にとどまらず、その文脈の中でどのような意味をもっているか考えを出させ、話し合う学習活動を設定する。

文章や資料に書かれている中から必要な情報を読み取り、条件に即して書くこと（活用）

3年生につけたい具体的な力

- エ 様々な文章や資料の表現の特徴を読み取ることができる。
- エ 様々な種類の文章から必要な情報を読み取ることができる。
- エ 資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や根拠を明確にして書くことができる。

指導の工夫

- エ 一定時間内に長文を読み、文章から得られる多くの情報を適切に処理する学習活動を取り入れる。
- エ 複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理し、自分の考えを書いたり発表したりする学習活動を取り入れる。
- エ 新聞記事、広告などの資料だけでなく、まとまった文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の表現に生かしていく学習活動を取り入れる。
- エ 生徒たちの関心が学校図書館に向き、読書に親しむ意欲が高まるよう工夫する。

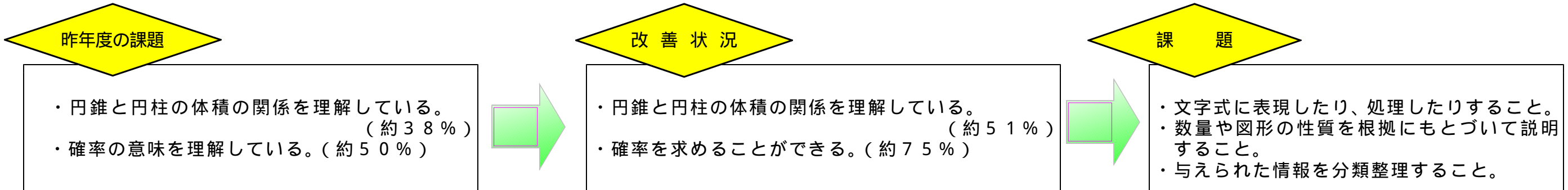
「長崎県国語力向上プラン」を踏まえ、目標を絞り、学ぶことを明確にして達成感・成就感を味わわせる授業、学んだことを生かす授業を実施する。（質問紙調査から）

- オ 目標を絞り、「この力がついた」「このことがわかった」という成就感をもたせて1時間の授業を終わるようにする。
- オ 言語活動を効果的に取り入れたり、文章や資料の読み取りから自分の考えを書き、意見交換をしたり、話し合ったりするなど、日常の言語生活に直接つながる授業を実施する。
- カ 新しく習った漢字を活用して、「総合的な学習の時間」で依頼文や手紙文を書かせたり、学習した漢字を漢語辞典で詳しく調べたりするなど、主体的な学習により語彙の拡充を図る場を設定する。

平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：中学校 数学科

長崎県教育委員会

中学校 数学



【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査
 全国正答率 63.1%
 県正答率 62.6%

主として「活用」に関する調査
 全国正答率 49.2%
 県正答率 49.9%

質問紙調査で良好な回答をした生徒

	県全体	(国全体)
・数学が好き	53.7%	(52.8%)
・数学の勉強が大切	80.4%	(78.1%)
・できるようにになりたい	91.3%	(89.0%)
・考え方がわかるノートづくり	80.2%	(77.0%)
・最後まで解答を書く	45.6%	(42.7%)

重点課題

「知識」に関する観点

- ア 文字式を使って表現、処理すること
- イ 三角形の合同条件や円周角の定理を利用すること
- ウ 関数関係を式で表すこと

「活用」に関する観点

- エ 根拠をもって数学的に説明すること
- オ 情報を単純化して分類整理すること

質問紙調査から

- カ わかった、できたを実感させること
- キ 与えられた課題を決められた時間内に処理すること

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

文字式や等式が表していることの意味を理解したり、事象を文字式で表したりする力の向上を図る。(知識)

3年生につけたい具体的な力

- ア 文字式に数を代入して式の値を求めることができる。
- ア 事象を式に表したり、文字式の意味を具体的な事象と関連付けて読み取ることができる。
- イ 三角形の合同条件を利用して、三角形の合同を判断できる。
- イ 円周角の定理を利用して角の大きさを求めることができる。
- ウ グラフや表からxとyの関係を式で表すことができる。

指導の工夫

- ア 式の値を求めることの意味を理解させるとともに、省略された演算記号を意識して式を読む活動を取り入れる。
- ア 言葉や などをを使った式を手がかりにして、数量の関係を文字式で表現させる活動を丁寧に指導する。
- イ 2つの三角形における辺や角の相等関係を与えられた条件だけでなく、図形の性質を利用して見いださせる活動を行う。
- イ 円周角の大きさを求めるために必要な情報を適切に取捨選択する活動を行う。
- ウ グラフ上の点の座標を読み取って表を作り、表から比例定数を見いだしたり、変化の割合やx=0のときのyの値が定数部分となることを確認したりするなど、表、式、グラフを関連付ける活動を取り入れる。

課題を解決するために必要な条件を読み取ったり、分類整理したりして数学的に説明する力の向上を図る(活用)

3年生につけたい具体的な力

- エ 文字を使った証明や三角形の合同を利用した証明ができる。
- オ 樹形図や表などを利用して、起こり得るすべての場合の数を求め、条件に合う組み合わせを選択できる。

指導の工夫

- エ 証明を書くことの指導において、必要な言葉や用語、記号を確実に習得させるとともに、推論の過程が異なる二つの証明を読んでその相違点を説明したり、誤った証明を読んでそれを改善したりする活動を取り入れる。
- オ 具体的な実験や調査結果を単純化したり、理想化したりして数学的な表現や考え方で処理する方法を考えさせる学習活動を取り入れる。

用語の意味や数式の計算など、知識・技能を確実に習得させ、処理を速く正確にできるようにする授業を実施する(質問紙調査)

- カ 学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れるとともに、習熟の程度等の個に応じた指導のために、コンピュータやデジタル教材等を利用する。
- キ 練習問題や小テストなどの時間を短縮していくなど、「できる」だけでなく「よりはやくできる」ことを賞賛する場面を設定する。